まほろん通信

2025 秋号 VOL.97

Fukushima Cultural Property Center Shirakawa since2001

- 企画展紹介
  「新収蔵資料展
  まほろんのニューフェイスたち」
- イベント紹介
  まほろん感謝デー
- イベント報告
  U-15の考古学「発掘調査で何がわかる?」関連行事
  きみも考古学者レポート
- 連載 まほろん
  学芸員のひとりごと
- まほろん収蔵資料紹介
  ミニ注口土器ズ そろいぶみ

写真：U-15 実技講座「土器をつくろう　土偶をつくろう」での様子

公式 YouTube　公式インスタグラム

企画展紹介

新収蔵資料展 まほろんのニューフェイスたち

文：鶴見　諒平（主任学芸員）

△ 土偶の頭部（天神谷地遺跡出土）

まほろんには令和７年10月時点で約60,000箱以上の遺物が保管されています。実際の遺物の点数ではどれほどの数になるかわからないほどです。そのため、皆さんに紹介しきれていない数多くの遺物が収蔵庫で出番を待っています。

この企画展では、主に令和に入ってから新たに収蔵され、まだ公開されていなかった遺物を中心に展示します。展示では、特に注目の遺物や珍しいもの、これは何だろう？というものをピックアップして紹介します。

同じお墓の穴から出土した土器
◁（栗林遺跡出土）

今回一番注目してほしいのは、下郷町栗林遺跡の出土遺物です。栗林遺跡では、縄文時代中期から後期の遺物が多く出土していて、東北地方・関東地方・北陸地方の３地域の特徴を持った土器が見つかっています。下郷町は、福島県の中でも関東や北陸に近い地域です。そのため、栗林遺跡は遺物だけではなく、住居の中の炉などからも周辺地域との関係がうかがえます。

南相馬市天神谷地遺跡から出土した土偶の頭部は、まさに今後「まほろんの顔」になってくれるかもしれない土偶です。刺青や、後頭部の櫛の表現など、じっくりご覧になってください。

◁ 土製品（滑石遺跡出土）

須賀川市滑石遺跡から出土した土製品、これは何を表しているものだと思いますか。顔がない土偶？何かの動物を真似たもの？それともほかの何か？実際に見ていただいて、皆さんにも考えてみてほしい遺物です。

ここまで紹介したのは全て縄文時代の遺物ですが、それ以外の時代のものも、もちろん展示します。南相馬市塚田Ｂ遺跡から出土した古墳時代の石製模造品、郡山市徳定Ａ・Ｂ遺跡の中世の手取釜など、多くの遺物を初公開します。

ぜひ、ご来館いただき、まほろんの「ニューフェイスたち」をご覧ください。

まほろん感謝デー

11/1（土）・2（日）
9:30～16:00

おばけな勾玉づくり
●感謝デー限定デザイン ●時間制（全5回）
350円

火おこし体験
●2日（日）選手権開催！ ●時間制（全7回）
無料

弓矢体験
●12:00～13:00休止 ●雨天中止
無料

編みつくり組飾り
●数に限りがあります
100円

他にも、親子で楽しめる体験がたくさん！
アクアマリンふくしまの移動水族館や那須高原ビジターセンター、国立那須甲子青少年自然の家の体験コーナーもあります。この２日間だけの特別なまほろんへぜひお越しください。

※一部体験メニューは日時が限られているものがございます。詳しくは当館ホームページでご確認ください。

令和7年度企画展
『U-15の考古学 発掘調査で何がわかる？』関連行事

きみも考古学者レポート

文：河西　久子（学芸員）

7月26日 きみも考古学者1 『発掘調査って何？』

発掘調査経験の豊富な当館学芸課長による、現場の土の匂いまで伝わってきそうな発掘エピソードや解説に、みなさん真剣に耳をかたむけていました。

「こんなものが出てくるのか」「こんなこともわかるのか」と目を輝かせる参加者の様子も見られました。

古墳に興味があるので、古墳時代の遺跡の発掘調査のお話が聞けたのがうれしかったです。出土状況から、どのように葬られたか考えるのがおもしろかったです！

8月6日 きみも考古学者2 『出土品を調査してみよう』

白河市文化財課のご協力をいただき、白河市歴史民俗資料館および資料整理室にて開催しました。展示室で白河市の歴史について学んだあと、土器の観察や出土品の土を落とす「水洗い」、土器や瓦の文様を写し取る「拓本」、さらに出土品に情報を記す「ネーミング」など、文化財を後世に伝える仕事の一端を体験しました。参加者のみなさんは講座の終了時間を惜しむほど熱中していました。

縄文土器が好きで、色々な博物館に行っています。今回は、初めて拓本体験をしました。文様が浮き出てくるのがおもしろかったです。また、参加したいです！

まほろん学芸員のひとりごと 第六回

文　勝川　若奈（学芸員）

今回は保存科学担当学芸員として「収蔵資料の保存」についてお話をしてみようかと思います。

当館では土器や石器、木製品、金属製品など様々な資料を収蔵しています。非常に脆いものもあるため、保存処理などを行い、より良い状態で後世へ引き継げるよう努めます（保存処理についてはまほろん通信87号でご紹介しています）。ただし、保存処理さえ行えば永久に残せるということはありません。実はその後の収蔵・展示環境の管理も重要です。展示室で左の写真のような機器を見たことはありませんか？

これはデータロガーといって、温湿度や照度などを記録できる機器です。資料によって適切な環境が異なるため、データロガーで展示室や収蔵庫の環境をモニタリングし、温湿度や照度などを管理しています。たまに「展示室が暗い」というご意見を頂くことがありますが、資料を保存するために照度を低くしていることが原因です。また、館内で「飲食禁止」という表示を見たことはありませんか？これは資料にダメージを与える虫やカビから資料を守るための表示です。来館者の皆様にも「収蔵資料の保存」にご協力いただいているというわけです。

収蔵資料保存のためのお仕事はなかなか皆様の目に触れる機会がありませんが、少しでも興味を持っていただければ幸いです。

まほろん　収蔵資料紹介

ミニ注口土器ズ　そろいぶみ

滑石遺跡（須賀川市）

文：青木　愛子（学芸員）

先日、まほろんの収蔵庫に、福島市にある資料整理室で整理作業を終えた滑石遺跡の資料が運ばれてきました。その中に、胸ときめくミニチュア土器があったのです！

写真１の土器が、今回収蔵されたばかりの注口土器です。縄文時代後期末～晩期初め（約 3,200 ～ 3,000 年前）のものです。一部欠けていますが、完形に近い状態で出土しました。急須のような丸いフォルムがとても可愛らしいですよね。丁寧に磨かれていて、表面がツヤツヤしているんです。高さは 6.2㎝で、内側を見ると、粘土紐を積んでつくられた痕があります（写真２）。

1

2

3

4

5

※紹介したミニチュア土器は 10 月 25 日開幕の「新収蔵資料展」にて展示予定です。ぜひ実物をご覧になって下さい。

写真３は、今から 30 年前に行われた、同じ滑石遺跡の予備調査で見つかった注口土器です。高さは５㎝で、縄文時代後期末（約 3,200 年前）のものと思われます。頸が長く、注ぎ口は欠けています。口縁部付近と体部の中央には、それぞれ細い隆帯（粘土紐）がめぐり、小さな瘤が貼り付けられています。

今回紹介した土器はミニチュア土器と呼ばれ、その名の通り、手のひらに乗るほどの小さなサイズです（写真４・５）。普通の土器の特徴をまねしたものが多く、文様をつけたり丁寧に作られたものもあります。この大きさの土器を作ること自体が難しいため、小さな土器に込めた縄文人の思いが伝わってきます。

ミニチュア土器の用途としては、①お祭りや儀式などの特別な道具 ②こどものおもちゃ ③土器づくりのための試作品 などの可能性が挙げられます。

何のために作られたのか、気になりますよね。

滑石遺跡

福島空港の建設に伴い、周辺調査した際にみつかった遺跡です。1995 年に予備調査を行いました。当時は工事を行わず、遺跡として保存されました。

その後、2019 年の台風 19 号による洪水被害を契機とする阿武隈川の治水対策工事の一環として、遺跡内が開発されることとなり、2023 年に発掘調査を行いました。縄文時代早期～晩期、平安時代の遺物が出土しています。

今後の行事予定

10/19（日）実技講座「大堀相馬焼体験①」
10/25（土）～ 12/14（日）
企画展「新収蔵資料展 まほろんのニューフェイスたち」
11/1（土）・11/2（日）まほろん感謝デー
移動水族館
11/15（土）「新収蔵資料展」関連講演会
11/16（日）第4回まほろん森の塾
11/29（土）実技講座「編み組み体験」
12/7（日）第4回館長講演会
第5回まほろん森の塾
12/14（日）実技講座「大堀相馬焼体験②」
1/24（土）～ 3/15（日）
企画展「ふくしまの縄文・弥生時代
―只見川流域の遺跡―」【前期】
1/24（土）「ふくしまの縄文・弥生時代」関連講演会１

※詳細はまほろんへお問合せいただくか、まほろんホームページをご覧ください。

編集後記

11 月 1・2日はまほろん感謝デーです。特別ゲストもやってきて、楽しい企画がいっぱいです。この機会にぜひまほろんへ！

また、まほろん館外のイベントで活動していることもあります。まほろんの出展を見つけたら、参加してみてくださいね！

まほろん通信 vol. 97
令和７年 10 月 15 日発行

開館時間　9:30 ～ 17:00（入館は 16:30 まで）
休 館 日　月曜日（11/3、11/24、1/12 を除く）、年末年始（12/28 ～ 1/5）、11/4、11/25、1/13
入 館 料　無料（体験学習によっては、材料費が必要な場合があります。）

まほろん
福島県文化財センター●白河館
〒 961-0835
福島県白河市白坂一里段 86
☎　0248-21-0700
Fax　0248-21-1075
ホームページ　まほろん　検索
HP　MAP